

第3部：聖書の視点を説明する

第10章 クリスチャンは悪魔に憑依されるのか？

霊的戦いの議論は、クリスチャンが悪魔に憑依されることがあるかどうかという問題を抜きにしては成り立ちません。

この質問にどのように答えるかによって、霊的戦いへのアプローチが大きく左右されます。

それによって、どのような牧会者の助言を期待されるか、あるいは受けるかが決まり、信者が世や肉や悪魔とどのように戦うかが決まります。

クリスチャンから悪霊を追い出したり、他の人から悪霊を追い出す方法を教えたりすることを目的としたミニストリーが設立されています。

クリスチャンが悪魔に取り憑かれていると信じるのが、私がこれまでの章で批判してきた霊的戦いの広範な神学にうまく合致することは、驚くことではありません。

私は、それは聖書的な霊的戦いの考え方には全く合わないと思います。

この章では、クリスチャンが悪魔に憑依されるという教義を支持するための議論に答えます。

悪魔祓いについては、別のテーマではありますが、後の章で検討したいと思います。

2つの見解

クリスチャンが悪魔に支配されることはあるのでしょうか？

ある人はこの質問に「はい」と答えますが、「悪魔に憑依された」という表現は必ずしも好きではなく、「悪魔に支配された」という表現を好むでしょう。

彼らは、信者が悪魔に「所有」されることはないが、悪魔に「支配」されることはあると主張します。

悪魔がクリスチャンに取り憑くことがあると信じる人は、そのような取り憑きや支配に対する解決策がエクソシズムであると信じています。

他の人は、この質問に「いいえ」と答えます。

クリスチャンには聖霊が宿っているので、悪魔は宿ることができないと主張します。

彼らは、悪魔は信者を攻撃し、欺き、誘惑し、さらには真の信者を肉体的にも霊的にも圧迫することができる」と主張します。

これらはすべて、信者の霊や魂の外部での活動であることに注意してください。クリスチャンに悪魔が宿ることはないと信じている人は、悪魔の攻撃に対処する適切な方法として、エクソシズムではなくレジスタンス（抵抗）を推進するでしょう。

悪魔の憑依とは？

まず、いくつかの用語を定義することから始めなければなりません。

アイスとディーンは、新約聖書で使われている悪魔憑きの用語を要約しています。

まず、ギリシャ語の「ダイモニゾマイ」は、一般的に使われている「悪魔」という名詞（ダイモニオン）の分詞形です。

この言葉は、通常、「悪魔に取り憑かれる」と訳され、また、そのような状態にある人を表す場合には、「デモニアク」-と訳されます。

この言葉は13回使われていますが、すべて福音書の中で使われており、通常、英語では「to be demonized」と表現されます。

ギリシャ語の第二用語は「悪魔を持つ」という意味の「ダイモニオン・エチェイン」です。

この言葉は、マタイ、ルカ、ヨハネで8回使われています。

ギリシャ語の文法では、対象者が悪魔を宿していることが特徴であるという考えを伝えています。

... “悪魔化”と“悪魔を持つ”は、聖書では、内在する悪魔に内的に支配されているという極端な場合にのみ使われます。

これらの言葉は、それ以下のケースを表すには決して使われません。

例えば、これらの用語は、サタンの告発、誘惑、欺き、迫害などの活動を表すものではなく、「悪魔に内的に支配されている」という極端なケースのみを表すものです。

クリスチャンが悪魔に支配されることがあると主張する人たちは、悪魔に「所有される」（possessed）ことと、単に「様々なレベルで悪魔に支配される」ことを区別しようとしています。

アイスとディーンとは対照的に、フレッド・ディカソンは、“Diamonizomenos”は、“悪魔に所有されている”という意味ではなく、単に“悪魔に支配されている”という意味であると書いています。

これは基本的に、悪魔に取り憑かれた人の状態を表しており、様々な影響を受けながら、様々な程度でコントロールされている状態です。

所有権という考えは、新約聖書の言葉とその使い方にはそぐわないものです。

サタンとその悪霊は何も所有していません。

神が彼らを所有しているのです。

クリスチャンが悪魔に取り憑かれることがあると信じている人たちは、悪魔に圧迫されることと、悪魔に取り憑かれることを実質的に区別していません。

外部から誘惑されたり、攻撃されたり、影響を受けたりする人は、彼らの考えでは、「悪魔に取りつかれた人」です。

悪魔に支配されている人も同様です。それは程度の問題です。

クリスチャンが悪魔に憑依されることを否定する人たちは、悪魔が人の内側に宿ることと、悪魔が人を外から攻撃したり、誘惑したり、圧迫したりすることを鋭く区別します。

私たちは、悪魔が信者を外から攻撃することには同意しますが、悪魔が信者を内から支配することは否定します。

「悪魔が取り憑いている」とは、悪魔に内在し支配されていることを意味します。

悪魔は人を所有することはできませんが、人や動物に宿ることはできます。

私たちが「悪魔憑き」という言葉を使うときは、このことを指しています。

聖書で使われている「悪魔化」という言葉は、悪魔に支配されているという極端な状態を表しています。

問題は、「聖書は、信者がこのような状態になることを教えているのか」ということです。

これは小さな違いではありません。この問題には、現代の霊的戦いの戦術の教えの多くがかかっています。

もしクリスチャンが未信者と同じようにサタンの影響を受けやすく、その支配を受けやすいのであれば、クリスチャンはサタンの影響を取り除く（エクソシスト）必要があります。

キリストにある私たちの立場は、未信者のそれよりも悪魔から安全ではありません。

それどころか、私たちは最もランクの高い異教徒と同じように、悪魔の攻撃と支配を受ける可能性が

あるのです。

経験に基づく神学の危険性

私たちは、悪魔憑きについての理解が、経験や臨床研究ではなく、聖書のデータに基づいていることを確認しなければなりません。

経験に基づいて神学を構築することの危険性は、故人となった学者Merrill F. Ungerの著作に見ることができます。

1952年に出版された彼の著書『聖書の悪魔学』の中で、アンガーは「悪魔憑きにさらされるのは不信心者だけである」と力強く宣言しています。

後にアンガーは、この主張が「悪霊が聖霊と共に贖われた体に宿ることはできないという仮定に基づいていた」ことを認めています。

1971年にアンガーが後の本を出版するまでに、彼は自分の意見を変えていました。この変更は、彼が「問題を明確に解決していない」と述べた聖書のテキストに基づくものではありませんでした。

それどころか、アンガーは世界中のキリスト教宣教師から、悪魔に取り憑かれた「クリスチャン」を目撃したと証言する手紙を受け取っていたのです。

アンガーの教義の変更は、聖書のテキストの解釈上の研究ではなく、経験に基づいていました。

アンガーは次のように述べています。

「ほとんどのクリスチャンは、信者が悪魔に憑依されることがあると言うのをためらうでしょう。このようなケースは、アメリカではほとんど見られません。しかし、悪魔の力を借りた偶像崇拜が福音によって古くから抑制されずに栄えてきた国では、悪魔憑きから解放された新しい信者が古い偶像に戻ったときに、再び悪魔に憑かれてしまうことが知られています。異教の地に赴いた多くの宣教師の証言がこの証拠を裏付けています。9]

アンガーは聖書によって自分の立場を変えるように説得されたのだろうか？

彼は、「日々の経験が、信者が悪魔の力によって抑圧されたり、奴隷にされたりする可能性があることを、聖書の証言に加えています」と述べています。”アンガーは経験に合わせて聖書のデータを変えようとしたが、決定要因は経験であって、聖書ではないことは明らかです。

アンガー氏はどのような体験を念頭に置いているのでしょうか？

彼は牧師のホバート・E・フリーマンの言葉を引用しています。

私の個人的な経験では、オカルト的な抑圧や支配からの解放のために祈った人々の大部分は、牧師や

牧師の妻を含むクリスチャンでした。

この立場のもう一人の提唱者であるトーマス・ホワイトは、「この立場が、聖霊と悪霊は同じ器に同居できないという考えに固執する多くの人々の反感を買うことは承知しています」と書いています。

しかし、肝心なのはこの点です。

聖書はその可能性を排除していませんし、臨床的な現実が何度もそれを確認しています。”11]

またしても、この問題に関する聖書の沈黙（と思われる）が、経験に照らし合わせて解釈され、クリスチャンが悪魔に宿り、支配されることがあるという信念を裏付けています。

救済のための証拠となるテキスト

クリスチャンが悪魔に取り憑かれる可能性があるという教えを裏付けるために、一般的にいくつかの聖書の例が挙げられます。

私たちは、それぞれの例を検証して、本当にそのようなケースがあるかどうかを確認します。

サウル王は、悪魔に憑依された、あるいは支配された信者の例として引用されることがあります。

1サムエル16：14には、「主の霊がサウルから離れ、主からの悪霊が彼を脅かした」と記されています。”12)

サウル王を引き合いに出すには、かなりの疑問が生じます。

サウルを例に挙げる人は、サウルが本物の信者であることを前提にしています。これは、そのままの仮定ではありません。

彼が王に任命されたとき、彼は神の人であったと思われませんが（サムエル記上10章）、その後の彼の行動は、本物の信者のそれとは矛盾していました（ヤコブ2：14）。13]

彼が王に選ばれ、神に用いられたという事実は、彼が信者であったことを証明するものではありません。

神は、キュロスやネブカドネザルのような異教徒の王を、神の様々な目的を達成するために選ばれた者として用いたのですから。

議論のためにサウルが信者であったことを認めたとしても、今日のクリスチャンが悪魔に取りつかれることを証明するものではありません。

旧約聖書の信者に対する聖霊の働きは、現代とは大きく異なっていました。

旧約聖書では、聖霊は信者に永続的に宿っていませんでした（詩篇 51:11）。

この事実だけでも、サウル王と現代の信者との間に類似点を見いだすことは不可能です。

ジョン・ウィンバーなどは、サウルが悪魔に苦しめられていたことを悪魔憑きと同一視しています。

しかし、サウルの例が悪魔憑きのケースではないのには3つの理由があります。第一に、その悪霊はサタンではなく、神から遣わされたとされています。

新約聖書の例では、イエスが祓った悪霊は、実際にはサタンから送られ、力を与えられたものであったことは間違いありません。

第二に、サウルを苦しめていた悪霊は、ダビデがハープを弾いたときに去ったと言われていたし、聖書の中で音楽を演奏したときに悪霊が去ったとされているものではありません。

それどころか、イエスや使徒たちは、主の名のもとに悪霊を追い出したのです。

第三に、そして最も重要なことは、聖句のすべての箇所、悪霊がサウルに臨んだこと、あるいはサウルから去ったことが述べられていることです。

悪霊がサウルに入り込んだとは書かれていません。

悪魔憑きの言葉は、誰かに襲いかかるだけでなく、誰かの中に入り込むことを意味します。

これらの節の言葉は、信者に起こりうる外部からの攻撃を記述しているとすれば、このような書き方になると言えるでしょう。

サウロは、旧約聖書の中で、キリスト教徒が悪魔に憑依される可能性があることを示す最も明確な例として提示されています。

しかし、サウルが信者であったとは考えられません。

また、彼の状況は、新約聖書における悪魔化の事例と何ら矛盾するものではありません。

サウルのケースを検証した結果、このケースは全く証明されていないと言えるのではないのでしょうか。

アブラハムの娘

ルカの福音書13章に出てくるアブラハムの娘も、真の信者が悪霊に憑依された例として挙げられています。

ルカの福音書13章11節には、「18年間、霊による病気にかかっていた女がいたが、彼女は二重に曲がっていて、まったくまっすぐにならなかった。」イエスがこの女性を癒された後、ファリサイ派の人々は、その日が安息日であったために憤慨した。この女はアブラハムの娘であり、サタンに18年間も縛られていたのだから、安息日に解放されてもよかったのではないか。」（ルカ 13:16）。

イエスが彼女を「アブラハムの娘」と呼んだことは、彼女が信者であることの証拠として引用されています。

悪霊によって引き起こされた彼女の病気は、彼女が憑依されていた（または悪霊に取り付かれていた）証拠と見なされています。

ニール・T. アンダーソンは次のように書いています。

「16節では、彼女の身体的な障害は、悪魔の束縛によって引き起こされたと述べています。この女性は不信心者ではありませんでした。彼女は「アブラハムの娘」（16節）であり、霊的な問題を抱えた神を恐れる信仰の女性でした.....。

この女性は、会堂の中にいたからといって、悪魔の支配から守られたわけではないことに注意してください。会堂の壁も教会の壁も、悪霊の影響からの聖域ではありません。

確かに、この出来事は十字架の前に起こったことです。しかし、これは、悪魔が信者に物理的な影響を与えることができることを示しています。18] 」

アンダーソン氏の見解では、肉体的な苦悩と完全な支配はすべて「悪魔化」の一部であることを覚えておいてください。アンダーソン氏によると、もし信者が「悪魔化」されてしまうと

アンダーソンによると、「霊的な問題」と「霊によって引き起こされる病気」と「悪魔の支配」とを実質的に区別していないので、「苦しんでいる」「支配されている」「宿っている」ということになります。

アンダーソンは、「霊的な問題」や「霊による病気」から「悪魔による支配」へとジャンプします。

彼にとっては、すべてが同じことなのです。

シナゴグや教会の壁が悪魔の支配から人を守ることはできないというアンダーソンの指摘は愚かなものです。

誰も建物の壁が霊から人を守ることはできるとは思っていない。

しかし、主権者である神の十字架の御業とその民の贖いが、悪魔の憑依と支配からの聖域を提供することを信じています。

サウル王の場合と同じように、アンダーソン氏の議論には、ちょっとした疑問があります。

彼は「アブラハムの娘」が本物の信者であることを前提にしています。フレッド・ディカソンは、アンダーソンに同意して、この女性は真の信者であると主張しています。なぜなら、(1) 会堂で礼拝したこと、(2) 癒されたことによって神を賛美したこと、(3) 「アブラハムの娘」という言葉は救いを意味しており、イエスは彼女がアブラハムのような信仰（信者）を持つ真のイスラエル人であることを示唆しているようだからです。

しかし、彼女が会堂で礼拝していたという事実は、彼女が信者であることを確実に示すものではありません。

というのも、この箇所に登場するファリサイ派の人々も会堂で礼拝していましたが、彼らを真の信者と見なすことはできないからです。

彼らは実際には、イエスとその教えに反対していたのです。会堂や教会で礼拝をしていても、真の信者ではないのです。ニール・アンダーソンのくだらない例えを借りると、シナゴグや教会の壁の中にも、その人が信者であることを示すものではありません。

第二に、本文には女が信者になったという記述はありませんし、仮になったとしても、それは解放されたことが原因ではなく、解放された結果であったと思われます。

第三に、「アブラハムの娘」という表現は、彼女が信者であることを確実に示すものではありません。

単に彼女がユダヤ人であることを示す民族的な表現である可能性が高いのです。

イエスは彼女を「アブラハムの娘」と言われる直前に、「偽善者たちよ、あなたがたは安息日に、それぞれ自分の牛やロバを家畜小屋から解いて、水をやるために連れて行かないのか」と言われました（ルカ13：15）。

おそらくイエスは、ファリサイ派の人々と彼女の民族的な関係を強調して、安息日にイエスが癒されることに反対する彼らが、この「アブラハムの娘」、つまり彼ら自身の同胞であるイスラエル人に対する同情心がまったくないことを示したのでしょう。

彼らは安息日に動物に同情を示していましたが、ここにアブラハムの娘がいたのです。アブラハムの子である彼女は、少なくとも彼らの牛と同じくらいの憐れみを受けるべきではないでしょうか。

イエスがこの言葉を使ったのは、彼女の信仰を強調するためではなく、彼らの偽善と硬い心を示すためです。

さらに、テキストには彼女が憑依されていたとは書かれていません。

ルカは、彼女の病気の原因が悪魔であったと記しています。彼女は霊によって不自由になっていましたが、それは悪魔が宿って支配していることとは違います。

注目すべきは、イエスが悪霊を追い出したのではなく、彼女の病気を治したということです。

悪魔に取り憑かれた明確なケースでは、イエスは悪魔を祓いました。このケースではそうしませんでした。

イスカリオテのユダ イスカリオテのユダも、信者が悪魔に取り憑かれた例として挙げられています。ジョン・ウィンバーによると、[20]

ユダは12人の弟子の一人であったので、信者でした。

聖書は「サタンが彼の中に入り込んだ」（John 13:27）という事実を明確な言葉で表現しているので、ユダが悪魔に憑依されていなかったという議論はできません。

ユダが悪魔に取り憑かれていたことは明らかです。

ヨハネ6:70-71で、イエスはユダを「悪魔」と呼んでいます。”ヨハネの福音書13章10-11節では、ユダがイエスを裏切ったために、罪が赦されない者としてユダを取り上げています。

イスカリオテのユダが信者であったと主張するのは、聖書の明確な教えを歪めています。実際には、彼は十二人の中にいたとしても、イエスを信じる真の信者ではなかったことが聖書によって明らかにされています。

彼がイエスに選ばれたのは、彼が信者だったからではなく、イエスの裏切りに関する聖句が成就するためだったのです。

ペテロ

ペテロは、マタイ16:23で、イエスがペテロに「サタンよ、わたしの後ろに下がれ」と言って叱ったことから、悪魔に取り憑かれた信者と言われている。

“これは、信者であるペテロがサタンに取り憑かれていたことを示していると主張されています。

もしそれが本当なら、「なぜイエスは悪霊を祓わなかったのか」という疑問が生じます。

“他の例と同様に、これは仮定であり、良いものではないことが分かります。

マタイ16章では、ペテロに対するサタンの影響は、内からではなく外から受けていました。

イエスの叱責は、ペテロの告白の源が「天におられるわたしの父」からのものであることをイエスが以前に確認したように、ペテロの考えの源を確認するためのものでした。

イエスは、ペテロの考えに影響を与えている霊的な存在を指摘していたのです。

テキストには、ペテロが悪魔に憑依され支配されていたことを示すような表現はどこにもありません。外部からの影響があったとしか思えない表現です。

アナニヤとサツピラ

アナニヤとサツピラもまた、悪魔に憑依された信者の例として挙げられています。なぜなら、使徒行伝5：3でペテロが彼らに「なぜサタンがあなたの心を満たして、聖霊に嘘をついたのか」と言ったからです。

アナニヤの心が満たされていたので、サタンに憑依されていたのではないかと考えられています。

テキストには、ペテロが悪魔に憑依され支配されていたことを示すような表現はどこにもありません。外部からの影響があったとしか思えない表現です。

アナニヤとサツピラ

アナニヤとサツピラもまた、悪魔に憑依された信者の例として挙げられています。なぜなら、使徒行伝5：3でペテロが彼らに「なぜサタンがあなたの心を満たして、聖霊に嘘をついたのか」と言ったからです。”アナニヤの心が満たされていたので、サタンに憑依されていたと考えられています。ニール・T. アンダーソンは次のように論じています。「使徒言行録5：3の『満たされた』という言葉 (pleroo) は、エペソ5：18の『御霊に満たされなさい』という言葉と同じです。クリスチャンは、サタンの惑わしに満たされることもあれば、御霊に満たされることもあるのです。どちらに委ねても、その源によって満たされ、支配されるのです。”^{23]}

アンダーソンは、「充填」と「制御」を間違って同一視することによって、「プレロー」の使用から誤った結論を引き出しています。

“新約聖書で使用されている「満たされる」という言葉 (プレロー) は、「宿る」とか「支配する」という意味ではありません。”実際、この言葉の多くの用法では、そのような意味はあり得ません。

例えば、ルカ3：5「すべての谷は満たされ、すべての山や丘は低くなり、曲がった道はまっすぐになり、荒れた道は滑らかになる」やルカ5：7「そこで、彼らは他の舟に乗っているパートナーに、来て助けてくれと合図した。すると、彼らはやって来て、両方の舟をいっぱいにしたので、舟は沈み始めた。」

“満たされた“という言葉は、必ずしも“内包され、支配される“という意味ではないことがわかります。

峡谷はどのように制御されるのでしょうか？

魚はボートを内包して「制御」したのでしょうか？^{24]}

「あなたの心を満たした」という言葉は、2つの意味で捉えることができます。第一に、悪魔の憑依を指している可能性があります、私はこの解釈を否定します。

第二に、嘘の父であるサタンがアナニアの心に影響を与え、彼の心が嘘をつきたいという気持ちで満たされたことを意味しているのかもしれませんが。

もし、アナニヤがサタンに支配されていたとすれば、嘘をついたのはアナニヤではなく、サタンだっ

たということになります。

アナニヤがサタンに支配されていたのであれば、嘘をついたのはアナニヤではなくサタンです。その場合、嘘をついた責任はアナニヤではなくサタンにあります。

しかし、ペテロは次の節で、「売れ残っている間は、あなたのもではなかったのですか。売られていない間は、あなたのもではなかったのですか。なぜ、あなたはこのような行為を心に描いたのですか。あなたは人に嘘をついたのではなく、神に嘘をついたのです」（使徒5：4）。

ペテロは、悪魔ではなくアナニヤに責任があるとはっきり信じていました。それは、神がアナニヤとサツピラを罰したことからわかります。彼らの罪のために、神は彼らを打ち殺されたのです（使徒5：5, 10）。もし、アナニヤとサツピラが悪魔に取り付かれていたのなら、なぜペテロは悪魔を祓わなかったのでしょうか。

悪魔が彼らにしたことで、なぜ彼らは罰せられたのでしょうか。

サタンはアナニヤの内側ではなく、外側から影響を与えました。これは、信者が悪霊に取り付かれた例ではありません。

アナニヤとサツピラは信者でしたが、悪魔に取り付かれてはいませんでした。

これらは、クリスチャンが悪魔に憑依される可能性があることを示す、最も一般的な例です。

明らかに、これらの例は、この問題を解決するものではありません。この立場を支持する人たちは、他の論点を提示することもあります。例えば、新約聖書（25章）の中で、クリスチャンが悪魔の力に立ち向かうという教えを取り上げ、そのような教えは、クリスチャンが悪魔に取り憑かれる（様々な程度で悪魔に支配されたり、宿ったりする）場合にのみ意味があるとするのです。

しかし、私たちが外面的にサタンの攻撃を受けているからといって、サタンが自由に、未信者と同じように、同じ程度に信者を支配できるということにはなりません。

これまで見てきたように、それは経験から導き出された教えであり、それが聖書のテキストに取り込まれているのです。

クリスチャンが憑依される可能性があるとは信じていたメリル・アンガーは、聖書は「この問題を明確に解決していない」と述べています。

フレッド・ディカソンは、アンガーに同意しながらも、「信者が悪魔に取り憑かれる可能性があるという証拠を、聖書が明確に示しているとは断言できない」と率直に認めています。

クリスチャンが悪魔化される可能性があるとは主張するためには、その見解の支持者は、「悪魔化」と「クリスチャン」を、それらの用語がすべての意味を失うほど広く定義しなければなりません。

私は、この問題に関して聖書は明確であり、信者の立場と特権に関する新約聖書のすべての教えは、

悪魔憑きの可能性を排除していると信じています。

ありえない

私たちは、未信者が悪魔に憑依され、支配される可能性があると考えられるかもしれませんが、未信者は、暗闇の王国に属し、嘘の父に属し、邪悪な者の支配下にあります。

実際、信者と世、肉、悪魔との関係は、未信者のそれとは全く異なっており、私たちは全く新しい創造物であると言われてしています。

以下の議論は、信者に悪魔が憑依することは完全に不可能であることを示しています。

第一に、私たちは解放されています。

コロサイ人への手紙1章13節には、「私たちを暗黒の領域から救い出して、最愛の御子の王国に移してくださいました。」^{30]}

私たちはもはやサタンの王国の領域にはいません。

サタンは私たちを攻撃したり、だましたり、誘惑したり、反対したりすることはできますが、私たちを支配したり、宿したりすることはできません。

私たちはサタンに属していないのです。

第二に、私たちは生ける神の神殿です。1 Corinthians 6 : 19 – 20 : 「あるいは、あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる聖霊の宮であり、あなたがたは神からいただいたもので、自分のものではないことを知らないのですか。あなたがたは高価に買い取られたのですから、自分の体で神をたたえなさい。」

聖書では、人は自分の中に神が宿っているかもしれないし、サタンが宿っているかもしれないが、両方が宿っていることはないという前提に立っています。

これが第二コリント6 : 14-16におけるパウロの議論の基礎となっています。

不信心者と一緒になってはいけません。正義と無法とが何の連携を持っているのでしょうか。また、キリストとベリアルとの間にどのような調和があり、信者と不信心者との間にどのような共通点があるのでしょうか。また、神の宮と偶像との間にどのような一致があるのでしょうか。

私たちは生ける神の神殿であり、神が「わたしは彼らの中に住み、彼らの中を歩む。」この箇所では、私たちが神の神殿であるという事実は、悪魔や偶像との親密な交わりを排除しています。では、サタンよりも強大な神が、信者の中に悪魔が共に住むことをどのようにして許されるのでしょうか。

それは考えられません。

第三に、ヨハネは、「あなたがたは神から出た者であり、幼な子であって、彼らに打ち勝ったのである。

クリスチャンが悪魔に取り憑かれている可能性があると言う人は、この聖句を「あなたの内にいる者よりも、あなたの内にいる者の方が大きい」と書き換えなければなりません。

“明らかに、神は信者の中におられ、サタンはこの世におられるのです。神が信者の中にいて、サタンが信者の中にいるということはありません。

第四に、私たちは封印され、保たれています。

エペソ 1:13-14: 「あなたがたも、真理のメッセージ、すなわち救いの福音を聞いて、それを信じた後、神の栄光のために、神の所有物の贖いを視野に入れて、私たちの相続の質として与えられた約束の聖霊によって、神のうちに封印されたのです。

“私たちは神に属しているので、聖霊が永久に私たちに宿り、私たちは贖いの日までその聖霊によって封印されているのです。

私たちは神に守られているので、聖書の約束では、この世の者（サタン）が私たちに触れることはありません（1ヨハネ5:18）。

信者が悪魔に憑依されることがあるという信仰は、これらの節のすべてを覆してしまいます。

第五に、新約聖書には、悪魔に取り付かれた信者をどう扱うかについての指示が全くありません。

もし、主張されているように、クリスチャンが悪魔に取り付かれることがあるのなら、新約聖書の書簡がそのような悪魔憑きのケースをどう扱うかについて沈黙しているとは思われません。私たちは、豊富な情報を期待しています。

私たちはこのような憑依を防ぐ方法や、憑依された場合の対処法について、豊富な情報を期待しています。。

また、憑依された信者の例が新約聖書のページを埋め尽くしていることも予想されます。コリント教会のように、横行する罪と悪魔崇拝の歴史を持つ教会は、そのような悪魔の足場にさらされ、悪魔に憑依された信者への対処法の指示を受けることになるでしょう。

その擁護者たちが信じさせようとしているように、解放が、勝利に満ちたクリスチャン生活にとって重要であるならば、新約聖書がそれを扱うことを当然期待できるからです。

しかし、私たちはそのようなことは何も知りません。

しかし、もしクリスチャンが憑依される可能性があるのなら、キリストの再臨までの間、勝利に満ちたクリスチャン生活を送る方法を信者に教えるために特別に書かれた新約聖書の書簡は、なぜ信者が悪魔に憑依される可能性があることを教えたり、クリスチャンから悪霊を追い出すように命じたり、この問題に対処する方法を教えたりしないのでしょうか。

このような重要な問題が書簡の中で扱われていないということは考えられません。

もし、手紙に悪魔を追い出す方法が書かれていたら、クリスチャンが悪魔に取り付かれる可能性があることは明らかでしょう。

したがって、新約聖書には、悪魔に取り付かれたキリスト教徒を扱う指示がないので、信者が悪魔に取り付かれる可能性があるとは仮定すると、この分野で機能するためには、再び経験と試行錯誤が教師となります。

アンガー、アンダーソン、その他の人たちは、まさに私たちに神学を得させようとしているのですが、それは聖書からではなく、試行錯誤の経験からです。

彼らの立場が聖書について何を示唆しているか考えてみましょう。

彼らは、悪魔に取り憑かれた信者に対処することは、クリスチャンとして勝利を収めるために不可欠であると信じています。

しかし、聖書にはそのような指示は一言もありません。

私たちは、聖書が私たちの人生と神性に必要なすべてを与えていないと結論づけなければなりません。

その代わりに、経験、臨床研究、試行錯誤から得られた方法や洞察力に頼らなければならないのです。

第六に、新約聖書が悪魔に対処するために教えていることは、常に同じで、「悪魔に抵抗する」ということです。

新約聖書では、悪魔に取り憑かれた人に対する救済策として、サタンや悪霊を追い出すことが挙げられていますが、信者は決してそのようなことをしてはいけません。

その代わりに、信者には、サタンや悪霊による外部からの誘惑に対抗するために、常に立ち上がることや抵抗することが命じられています。”^{34]}

体験談については？

クリスチャンが悪魔に取り憑かれていることを示唆するような様々な体験を、私たちはどう考えればいいのでしょうか。

まず、私たちの経験は、神からの啓示に照らして解釈しなければならず、その逆ではないことを認識することから始めます。

もし私たちが聖書の教えを権威あるものと考えれば、私たちは自分の経験を聖書の明確な教えと調和するように説明する必要があります。

この原則に基づいて、私はアンガー氏や他の人々が引用した経験には、少なくとも3つの可能性があると考えています。

まず、これらの「信者」は本当の信者ではなかったのかもしれませんが。

アンガーは、「悪魔憑きから解放された新しい信者が、古い偶像に戻ったときに、再び悪魔憑きになることが知られている」と述べています。”35]

えっ？自分の偶像に戻る？すぐに背教してしまうような改心とはどのようなものでしょうか？それは、神の霊による本物の再生ではないことは確かです。

テサロニケの真の信者たちは、自分たちの偶像に立ち返ることはありませんでした。36]

偶像に戻ってキリストから離れる人は、もともとキリストのものではなかったことを示しています。37]

彼らは罪、自己、サタンから解放されたことがないので、キリストへの信仰を公言した後、いつか憑依されたとしても驚くべきことではありません。

第二に、これらのエピソードは憑依ではなく、悪魔の圧迫かもしれません。

ある状況では、彼らは本物の信者であり、悪魔が宿っていないにもかかわらず、サタンに支配されてしまい、憑依されているように見えるほどの圧迫を受けているのかもしれませんが。

もし信者が、自分の罪、病気、勝利に満ちたクリスチャン生活ができているのは、内在して支配している悪魔の影響によるものだとして純粋に考え、自分の行動においてこの神学に従うならば、実際に意識的に降伏することができるでしょう。

そのような影響をメンバーに与えてしまうのです。

この聖書に反する教義を信じることによる心身の力は、外からの圧迫が内からの憑依のように見えてしまうほど、悪魔に支配されてしまう可能性があります。

第三に、それは単なる悪魔の欺瞞かもしれません。

サタンは、クリスチャンに自分が実際よりも大きな力を持っていると思わせたいのです。

もし私たちがサタンを恐れて生活し、常にサタンが私たちに内在し支配していると考え、常に信者からサタンを追い出そうとするなら、サタンは教会を影で追わせるでしょう。

サタンは、私たちのサタンに対する考え方が間違っていれば、利益を得ることができます。サタンは、彼がどのように扱われるべきかについて信者を欺くことに既得権を持っています。

敵は、何千人ものクリスチャンを現実の紛争から連れ出し、肉の武器を使って架空の紛争に従事させることができれば、勝利を得ることができるのです。

私は、クリスチャンの悪魔憑きの経験に基づく神学は、悪魔の欺瞞であると信じています。

これは、サタンが、偽の改宗者に憑依し、本物の改宗者を抑圧することによって、成功裏に育て上げた欺瞞であり、聖書の明確な教えに対する私たちの信頼を損ねているのです。

クリスチャンが悪魔に取り憑かれることはあるのでしょうか？いいえ。絶対にありません。

聖書からも経験からも、そうでないことを示唆するものではありません。

注釈 1. 技術的には、サタンは何も所有することができないので、彼らは、信者が神に属していても、サタンに支配されている可能性があるとは主張します。これは結局、意味上の区別であって、ほとんど違いはありません。